

なぜ、「修学旅行」なのか

鈴蘭台中学校長

学校で修学旅行をなぜ行うか、考えたことはありますか？

新型コロナウイルス感染症が流行し、学校行事はおろか満足に登校することもできなかった数年前、「修学旅行だけは行かせてあげたい」「場所はどこでもいいから」「日帰りでもいいから」と、学校の先生や保護者の方だけでなく、様々な人がそう言っている場面を見かけました。そんな強い思いの後押しの中、みなさんは小学校6年生のとき、多くの制限がありながらも修学旅行を実施したと思います。

修学旅行は、多くの人々が中学生に体験させあげてほしいと願っている、「学校行事」で行ってこそ意味のある、大切な「学びの機会」なのです。

では、何を学ぶのか。日本の学校における旅行的行事の目的は主に2つです。

- 見聞を広め、自然や文化などに親しむ
- 集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積む

そして鈴蘭台中学校56回生においては、沖縄に修学旅行に行くことにより、

- 沖縄の生活や文化を通して、国際理解を深め、平和と自然を愛する心を養う
- 集団生活や校外での活動を通して、社会のルールやマナーを学び、責任感・協調性・自主性を養う
- 寝食を共にし、学年・学級・班の親睦を図り、お互いの良さを認め合い、友情を深め心に残る思い出をつくる

という目的を掲げています。本校の修学旅行で目指す「学び」の目標です。

沖縄の歴史は、数多くの学ぶべき事柄がありますし、その文化、風土は、国際色豊かで情緒あふれるものです。そこに暮らす人々の人情や暮らしの営み、神戸とはまた違う自然の様子やその恵みにも、心を動かされるものがあると思います。ぜひ、班や友達と協力しながら、事前に調べ、考え、想像し、現地で見て、聞いて、触れて、味わって、感じて、確かめて帰ってきてほしいものです。そしてそのあとじっくり、広げて、深めて、役立ててほしいと思います。このようなことは1年生や2年生ではまだ難しいでしょう。だから3年生での『修学』旅行なのです。

無事に修学旅行を終え、神戸の地に戻り、再びこの鈴蘭台中学校に集ったときに、みなさん1人1人が、修学旅行の体験を通じての「学び」や「新たな発見」「人間関係の深まり」などを、自分や友達に感じることができれば、素晴らしいと思います。それがやがて心に残る「思い出」になるのでしょう。

でも、そのために最も大切なのは、「元気に行って、元気に帰ってくる」ことです。体調管理と安全面には細心の注意を払って生活しましょう。(行く前も、現地でも、帰ってからでも。)

56回生みんなと、そして、学年の先生たちと一緒に、素敵な修学旅行を創り上げましょう。